

イワタバコ科植物の塊茎形成について

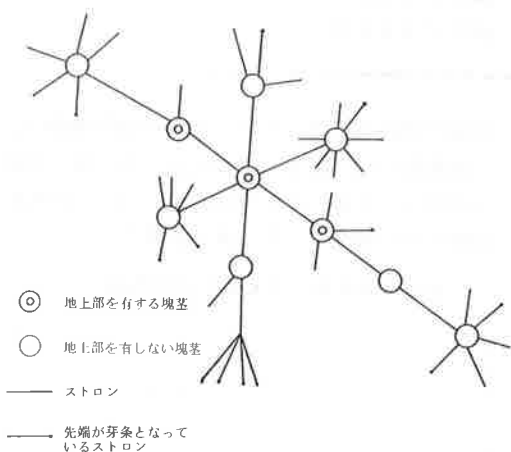
中山 長 秀

1. シンニンギアにおける塊茎形成の特異な様式

シンニンギア属は、中南米に約75種分布し、園芸的には一般にグロキシニアと呼ばれている植物である。

本属には塊茎を形成する種と形成しない種があるが、今回塊茎を形成する2種において、その形成が本属の植物はもちろん他の植物でも見られない特異な様式で行われていることを確認したので記録、報告する。

リッチイ *S. richii* 及びチュビフローラ *S. tubiflora* は、塊茎からストロンを伸長させ、その先端に新しい塊茎を形成、そこからさらにストロンを伸ばし再び塊茎を形成するというパターンをくり返す(図及び写真)。これら2種の植物においては塊茎にできる不定芽は、多数であるが、ストロンとして発達するものは、そのうちでも1~数本である。ストロンには先端が塊茎となるものや塊茎を形成せず芽条として発達するものがあった。また、塊茎のなかでも地上部(葉)を発達させるものとそうでないものが見られた。



Sinningia tubiflora の塊茎、ストロンの形成様式の模式図

上、シンニンギア・チュービフローラの塊茎及びストロン。中、ナウティロカリックス・メリティフォリウスの花。下、同塊茎。

2. ナウティロカリックス・メリティフォリウス *Nautilocalyx melittifolius* Wiehler の塊茎

本属の植物は、中南米に約50種知られ、エписシアと近縁で、かつてはエписシア属に分類されていたが、セルビア植物園のHans Wiehler氏が分類の検討を行いナウティロカリックス属とした。ストロンを生じない点でエписシアと異なっている。

本属の植物のなかには、茎の最下部に塊茎がまれに形成されるという報告が海外でなされているが、たいへんまれであるためこれまで我が国ではその確認をされていなかった。今回当園でその塊茎を確認したので記録、報告する。

鉢植え7株及び温室内棚下地植え6株について地下部を調べたところ、後者の1株に2個の塊茎が形成されていたことを確認した(写真)。

塊茎は、小型で17×13×10(高さ)mmでやや扁平なもので、頂部には数個の芽が形成されていた。

